

IgE 検査に関する「よくある質問 (FAQ)」

【吸入性アレルゲン】

《花粉アレルゲン》

Q1. 春・夏・秋に飛散する花粉で重要なものは何ですか？

A1. 春・夏・秋に開花する植物で重要とれるのは下記のもので。

【春】ハンノキ、スギ、ヒノキ、イネ科*

【夏】ブタクサ、ヨモギ、イネ科*

【秋】ブタクサ、ヨモギ、カナムグラ、アキノキリンソウ、イネ科*

*イネ科：カモガヤ、ハルガヤ、オオアワガエリ、ギョウギシバなど

A2. アキノキリンソウ、セイタカアワダチソウ、セイタカアキノキリンソウの違いは何ですか？

Q2. アキノキリンソウの別名はアワダチソウであり、セイタカアキノキリンソウは別名セイタカアワダチソウと呼ばれます。

アキノキリンソウ (アワダチソウ) とセイタカアキノキリンソウ (セイタカアワダチソウ) は別種ですが、いずれもキク科アキノキリンソウ属の植物です。

キク科 アキノキリンソウ属 — **アキノキリンソウ 【w12】**
— セイタカアキノキリンソウ (別名：セイタカアワダチソウ)

《室内塵・ダニアレルゲン》

Q1. ハウスダスト 1 と 2 の違いを教えてください。

A1. アレルゲン原料の製造メーカーの違いです。両方とも米国製で、ハウスダスト 1 はグリアラボ社製、ハウスダスト 2 はホリスター社製の治療用エキスをしています。いずれもダニ、動物フケ、ゴキブリなどが含まれていると考えられ、両者には強い相関関係がありますが、ハウスダスト 1 の方が若干ですが陽性率が高いとされています。

Q2. ダニ 1 と 2 の違いを教えてください。

A2. ダニ 1 (ヤケヒョウヒダニ) とダニ 2 (コナヒョウヒダニ) はいずれも室内塵のアレルゲンとして重要なもので、両者の間には強い相関関係が認められますが、ダニ 1 の方が若干ですが陽性率が高いといわれています。

《動物アレルゲン》

Q1. 動物の毛は上皮、皮屑 (フケ) に含まれますか？

A1. 毛は上皮、皮屑の原料には混入されていますが、毛の成分そのものは水溶性ではないため、アレルゲンエキス中には抽出されないため、毛の成分自体に対する特異的 IgE は測定できません。

一般的に動物アレルゲンに感作される場合は、毛そのものの成分ではなく毛に付着した皮屑や血清蛋白が原因と考えられており、測定には上皮や皮屑が適しています。

Q2. イヌやネコには沢山の種類がありますが、違いはありますか？

A2. イヌやネコは毛やサイズなど外見上様々な種類がありますが、実はそれぞれ同じ学名を持つ一つの種です。(イヌ：*Canis familiaris*、ネコ：*Felis domesticus*)

たとえば、プードルとシェパードは外見的にはかなり違いますが、品種の違いにすぎないのでアレルギー蛋白には大きな差はないと考えられます。

Q3. セキセイインコのアレルゲンには羽毛、ふんがありますが、どちらを測定するのが良いのでしょうか？

A3. トリの尾部からは脂肪性蛋白質が分泌され、それを羽毛に塗り付けることにより水から羽毛を守っています。現在は中止になっていますが、以前セキセイインコ血清蛋白というアレルゲンがあり、この脂肪性蛋白は血清蛋白に近いと考えられます。また、羽毛にはこの脂肪性蛋白や皮屑（フケ）などが付着して粉状になり、吸入性アレルゲンになります。

羽毛と血清蛋白には共通抗原性があり、また羽毛には特異的な抗原が存在するという報告があります。羽毛、ふん、血清蛋白の陽性率を比較した結果、羽毛が最も高かったという報告もありますが、セキセイインコによるアレルギーが強く疑われる場合は羽毛とふんの両方を測定することをお勧めします。

Q4. ラットとマウスの違いを教えてください。

A4. 一般的な名称で言うとラットはドブネズミ、マウスはハツカネズミです。いずれも上皮、血清蛋白、尿蛋白の混合物を使用しています。

《真菌・細菌アレルゲン》

Q1. 屋内で発生する主要なカビにはどのようなものがありますか？

A1. 一般的に室内環境に生息する主要なカビとして以下のものがあります。

【室内空中】クラドスポリウム、ペニシリウム、(季節的には5~7月、9~10月に増加し、冬は少ない)

【室内塵中】アスペルギルス、クラドスポリウム、ペニシリウム

【カーペット、畳】ペニシリウム、アスペルギルス

【エアコン内】アスペルギルス、クラドスポリウム、ペニシリウム

【水回り】クラドスポリウム、アルテルナリア

Q2. 黄色ブドウ球菌にはAとBがありますが、違いを教えてください。

A2. 黄色ブドウ球菌 (*Staphylococcus aureus*) という細菌が産生する毒素の違いです。

正式には「黄色ブドウ球菌エンテロトキシン A (SEA)」および「黄色ブドウ球菌エンテロトキシン B (SEB)」といい、常在菌ではありますがアトピー性皮膚炎の重症化に関連があると考えられています。

特異的 IgE の陽性率に大差はないとされていますが、片方が陽性ならもう片方も陽性になるとは限らないため、両方測定することが推奨されます。

《職業性アレルゲン》

Q1. イソシアネートにはTDI、MDI、HDIの3種類があります。それぞれの違いを教えてください。

また、無水フタル酸とはどのようなものですか？

A1. イソシアネートは、ポリウレタンの原料となるほか、プラスチック、接着剤、塗料、絶縁体、人工芝

などの原料として広く用いられています。TDI、MDI、HDI はいずれもイソシアネートの種類であり、TDI、MDIなどは芳香族イソシアネート系に属します。この中でTDIの毒性が最も強く、MDIの使用が増加しているという報告があります。揮発性であるため、喘息、鼻炎、過敏性肺臓炎などの症状の原因となることがあります。また、これらには交差反応も存在しますが、各々独立して陽性になることもありますので、業務従事者には3種類測定することが推奨されます。

無水フタル酸は塗料、樹脂、プラスチックの原料として使われており、刺激性が強く、これらを製造している工場の従事者に呼吸障害を起こすことがあります。

Q2. オオバコの種子とはどのようなものですか？

A2. サリウムとも呼ばれ緩下剤の原料にったり、消化管内で水分を吸収することにより膨張し、食欲を抑制することからダイエットにも用いられます。調剤薬局や緩下剤製造業者において、吸入による暴露により喘息や鼻炎を起こすことがあるとされますが、摂取による感作の可能性は低いといわれています。

Q3. シックハウス症候群ではどのような項目を測定すればよろしいでしょうか。

A3. シックハウス症候群は室内環境要因、特に室内の空気質に起因する健康障害を意味します。その中にはアレルギー性のもも含まれ、特異的 IgE の関与も報告されていますが、ほとんどがアレルギーと無関係と考えられており、アレルギーが関与しているものはほんの一部とされています。アレルギーの関与があるかどうか確認する場合に検査できる項目は、化学物質ではホルマリンのみです。陽性率はけっして高くはありませんが、新築家屋でアレルギー症状を起こした症例で特異的 IgE が検出された例が報告されています。